



豊玉二中だより

令和3年度 第2号
発行日 5月10日(月)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 神山 信次郎

目指す15歳の姿

副校長 木原賢三

風薫る5月、青葉若葉の美しい季節となり、豊玉第二中学校の周辺の木々も若々しい緑であふれています。4月に入学した1年生も初めての中学校生活に戸惑いながらも、授業や部活動に一生懸命に取り組んでいます。また、上級生となった2・3年生も新しい仲間と共に誇れる上級生を目指して、よりよい学級、学年づくりに向けて充実した学校生活を送っています。コロナ禍の中の学校生活ですが、生徒たちは大きく成長しつつあることを実感しました。

さて、本校では平成26年に、新しい時代に対応した学校教育を推進するための新校舎が完成し、豊玉第二小学校、豊玉東小学校、そして本校の3校で施設分離型の小中一貫教育を推進しています。豊玉二中グループでは、平成23年度に練馬区小中一貫・連携教育研究グループとして研究が始まりました。それまでも、授業参観や文化発表会、部活動体験、中学校見学会等の「交流」活動は行われていましたが、義務教育9年間を見通して行う学習指導の実現に着手することが求められ、3校は「交流」から「連携・一貫」へと歩みを進めてきました。さらに、練馬区においても平成27年度から、全小中学校で小中一貫教育を推進することになり、本グループは、施設分離型の小中一貫教育委のパイオニアとしての役割を担い、本区の小中一貫教育の推進に、より一層貢献することが求められてきました。

そして、令和元年度からは、小中の円滑な接続と基礎的・基本的な学力の定着、学力の向上をめざした小中一貫教育プログラムのもと、5・6年生の年14日間の乗り入れ授業、運動会の小中連携競技・合唱交流や児童会生徒会交流会などが実施されてきました。その成果で、小学6年生からは「中学校の授業を体験し、中学校生活への不安がなくなった。」「中学生が優しく教えてくれたりして、私も早く中学生になりたいと思った。」また、「合唱交流で中学生の歌声を聴き、来年は私も中学生をお手本に頑張りたいです。」など、小学生の学習意欲の向上につながっただけでなく、中学生にとっても「小学生との意見交流を通して、たくさんの刺激を受け、もっと頑張ろうという気持ちになった。」「小学生に教えることによって自分も学習が深まった。」など、中学生にとっても自己有用感を高めることにつながりました。さらに、交流活動を通して、小学生も中学生もお互いに刺激を受け、さらに良いものを創りあげていこうという気持ちをもつことにもつながりました。また、教職員にとっても、小中合同研修会を通して、9年間を見通した学習内容のつながりを意識して指導方法や教材等の検討をすすめ、指導力の向上に役立つとともに、生徒指導においても連携を深め、生徒の教育活動での課題を共有し、小中で一貫した指導を行うことができるようになり、児童生徒の安定した学校生活につなげることができました。さらに、今年度は、3校で目指す15歳の姿を「コミュニケーション能力を高め、主体的に自らの生き方について考え、社会に貢献することができる児童・生徒」と定め、小中一貫教育に取り組んでまいります。

今後も3校が9年間の義務教育を連続した学びと捉え、連携した質の高い教育活動を行っていきます。そのことで、「小中の連携があるから、信頼して学校に行ける、安心して通える。」と児童・生徒の皆さん、そして、保護者、地域の方に評価していただけるよう、3校が連携を深め、小中一貫教育を推進していきます。これからも豊玉地区の宝である子供たちをより輝かせるために、教育活動に取り組んでいく所存です。今後とも、保護者の方のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。